

大津企業景況調査報告書

(第67回)

平成26年10月～12月期 実績

平成27年 1月～ 3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成26年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	15社	75.0%
製 造 業	10社	7社	70.0%
卸 売 業	10社	9社	90.0%
小 売 業	30社	24社	80.0%
サービス業	30社	26社	86.6%
合 計	100社	81社	81.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成26年10月～12月とし、調査時点は平成26年11月19日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感はやや改善するも小売業は悪化

平成 26 年 10 月～12 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

消費増税から 8 ヶ月が経過したが景気の足踏み状態が続いている。景況は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が▲14 と前四半期から 9 ポイント改善した。業種別では、小売業を除く全業種が前年同期と同じ水準まで回復したが、小売業のみは▲46 と悪化した。これは消費増税の影響が長引いており個人消費が十分回復していないためとみられる。

先行きは、業況判断 DI が▲16 とやや悪化すると予想しており足踏み状態が続く見込みである。業種別では、公共工事の増加等により建設業は改善する見込みであるが、製造業は横ばい、その他の業種は悪化すると見込んでいる。これは円安による材料高、燃料費の高騰、運賃の上昇、人材確保難などが影響しているためとみられる。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は、やや改善するも小売業は悪化

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、▲14 と前四半期から 9 ポイント改善した。業種別では、小売業を除く全業種が前年同期と同じ水準まで回復したが、小売業のみは▲46 と悪化した。これは消費増税の影響が長引いており個人消費が十分回復していないためとみられる。

□ 売上 DI（前年同期比）は改善。建設業、製造業は増加に転じ、小売業、サービス業は減少

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲29 から今四半期▲10 と改善した。業種別にみると、建設業、製造業は大幅に増加してプラスになったが、卸売業は前年並み、小売業、サービス業は減少が続いている。

□ 採算 DI（前年同期比）は悪化が続く。建設業、製造業が改善、卸・小売業は悪化

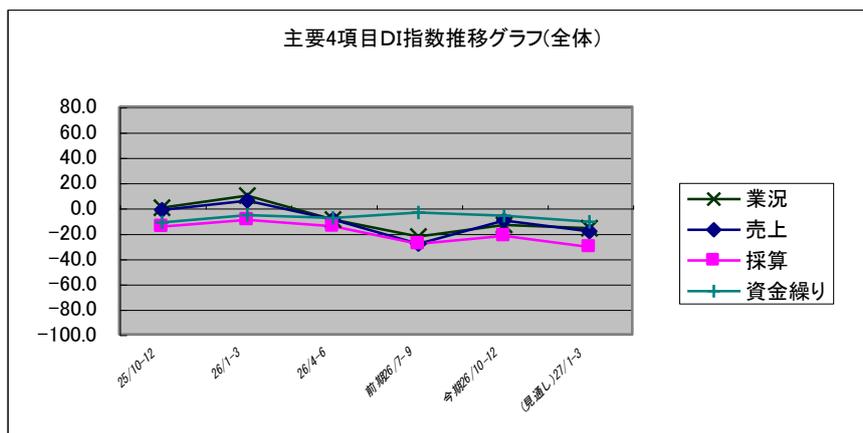
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期▲29 から今四半期▲22 と小幅改善した。業種別にみると、建設業、製造業が改善しているが、卸売業、小売業は悪化している。これは個人消費が十分回復していないためとみられる。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は小売業を除く全業種がほぼ前年並み。小売業は悪化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲4 から今四半期▲6 とやや悪化した。業種別にみると、小売業を除く全業種がほぼ前年並みとなったが、小売業は悪化した。

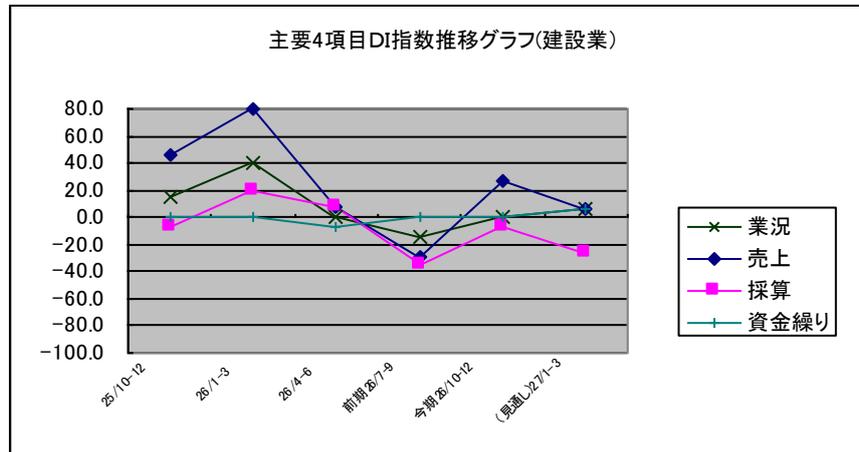
□ 従業員 DI（前年同期比）は人員不足が続く。建設業、サービス業で特に顕著

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+16 が今期+19 と人員不足が続いている。業種別にみると、建設業が+40、サービス業が+23 と両業種において特に顕著である。



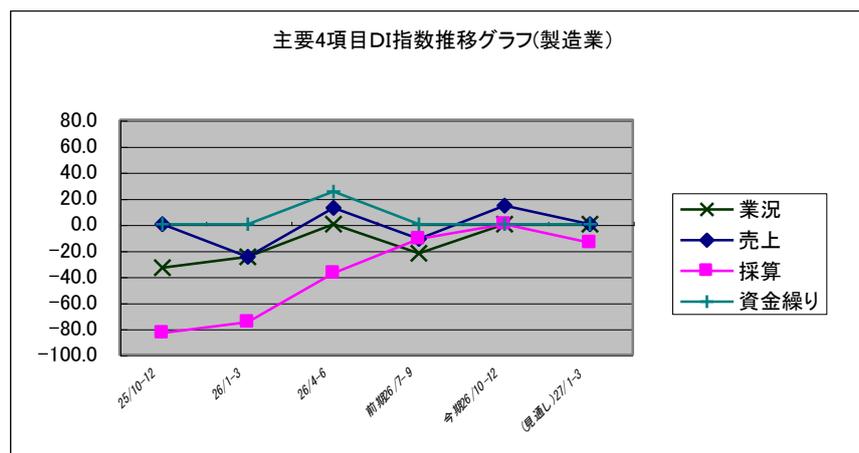
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲14 から今四半期±0 と前年同期水準に改善した。個別指標をみると「売上」が前四半期の▲29 から公共工事の増加等で今四半期+27 と大幅増加し、「採算水準」も黒字企業が増えてはいるものの、「従業員」で大幅な人手不足が続いていることから「採算」は前年同期比悪化が続いており結果として上記業況判断に至ったとみられる。



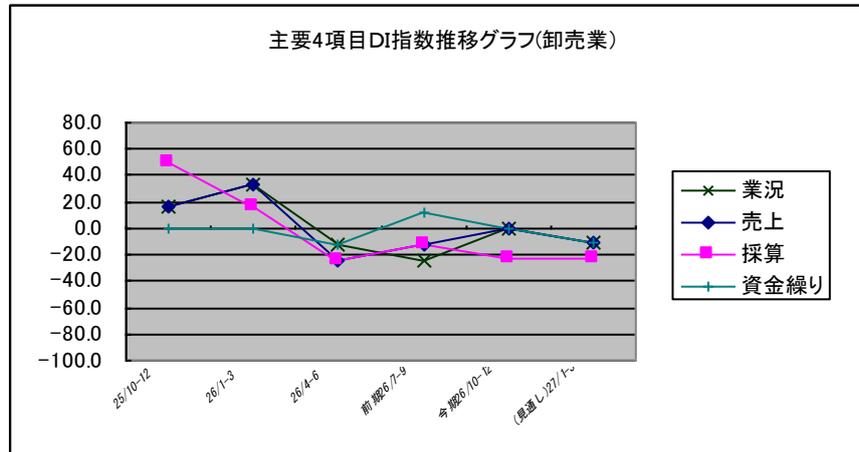
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲22 から今四半期は±0(前年同期並み)と改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲11 から今四半期+14 に増加し、「採算」も前四半期の▲11 から今四半期±0(前年同期並み)と改善し「採算水準」は黒字企業が増えている。「人員」は5 四半期連続±0(過不足なし)である。



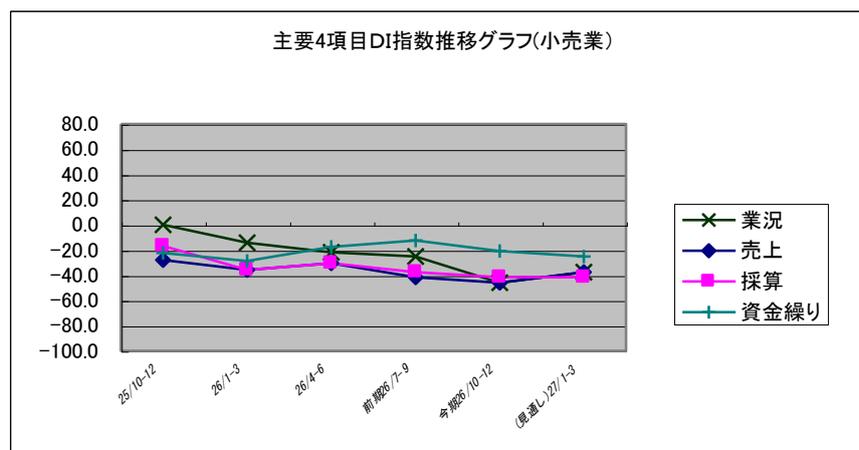
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲25 から今四半期は±0(前年同期並み)と改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲13 から今四半期は±0(前年同期並み)と増加し、「採算」は悪化が続いているが「採算水準」は黒字企業が増加した。「問い合わせ」は前年同期並みに改善した。



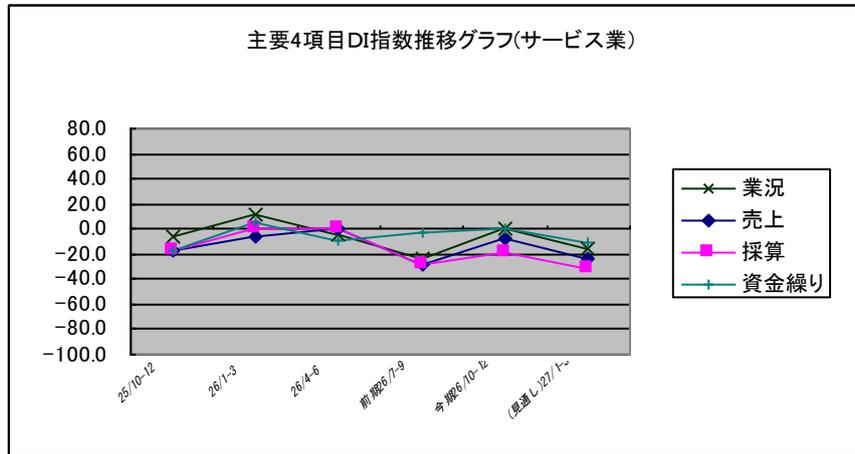
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲25 から今四半期は▲46 とさらに悪化した。個別指標をみると「売上」は更に減少が続き、「採算」も更に悪化が続いており、「採算水準」は赤字基調である。「人員」も不足が続いている。消費増税の影響が長引いており個人消費が十分回復していないことに加えアベノミクスの効果が地方の中小企業にまで及んでいない面が見受けられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲24 から今四半期は±0(前年同期並み)と改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲28 から今四半期は▲8 と改善し、「採算」も悪化幅が縮小し「採算水準」は黒字企業が増えたが、「従業員」は人員の確保難が続いている。円安による燃料費の高騰や運賃の値上げ等が採算を厳しくしていると見受けられる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲14 から▲16 と足踏み状態が続く見込みとなっている。個別指標をみると、「売上」は減少し、「採算」が悪化して「採算水準」が赤字化するとみており、人員不足はやや緩和するとみている。業種別では、公共工事の増加が見込まれる建設業がプラスになり、円安、原油安等から製造業は引き続き前年同期並みになるとみているが、その他の業種は前年より悪化するとみている。特に小売業、サービス業の悪化幅は大きく、消費増税や円安、物価高、天候不順等の影響で個人消費の回復が遅れることで慎重な見方をしているものとみられる。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は全体で前四半期から8ポイント減って21%であった。業種別にみると、卸売業が最も高く33%、小売業21%、建設業20%、サービス業19%、製造業14%であった。投資企業の投資内容の割合は、「更新投資」が44%で最も多く、「合理化・省力化投資」が39%であった。投資方針は、「計画通り」が53%ある。一方「景気により計画を見直す」も41%あり、特に卸売業、小売業、サービス業においては「景気により見直す」が「計画通り」を上回っている。個人消費に敏感な業種は慎重に考えていることが見受けられる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は11社であった。

- ・円安の影響が今後懸念される。(製造業)
- ・バタバタしている割には、なかなか前に進まない。(製造業)
- ・平成26年消費税改正年においては、4～6月の状況を中心に調べるのが本来の調査かと思えます。11月中において、12月までを含む予測というのは難しい。(卸売業)
- ・減少である原因が人材の確保難、休日の増加により、サービス業は先行き多難。(小売業)
- ・「アベノミクス」の「地方創生」で天津にも活性化策をお願いしたい。(小売業)
- ・政府の発表する景気判断は大企業偏重の指標により、小企業の私から見ると非常に違和感を覚える。景気判断は、大企業、中小企業他、よりきめこまかい発表がなされるべきと思う。(小売業)
- ・我々業界の中で貸切バス運賃が7月より大幅な値上がり(国交省通達)が生じており、顧客に浸透されてなく、控えるグループもあり、来期は厳しいと感じます。今期は駆け込み予約のおかげで売り上げは上がりましたが・・・。(サービス業)
- ・円安であっても輸入燃料(ガソリン等)の高騰から安定価格又は適正価格にあることは大変好ましいが、今後はこの傾向が悪化すると自動車での交通手段である事業者は事業採算が圧迫されるのではないか。(サービス業)
- ・消費税の引上げの影響が長引いている様ですが、価格表示の方式を3月以前の総額表示へ戻すべきでは。消費意欲を阻害する要因を排除する事を考えて、「今(消費)購入しないと損である」と思う様な方向へ持っていくことを第一に考える事ではないでしょうか。(サービス業)
- ・増税10%が大きな問題です。冬は仕事量が少なくなるので、今秋にどれだけ注文を取れるか?(建設業)

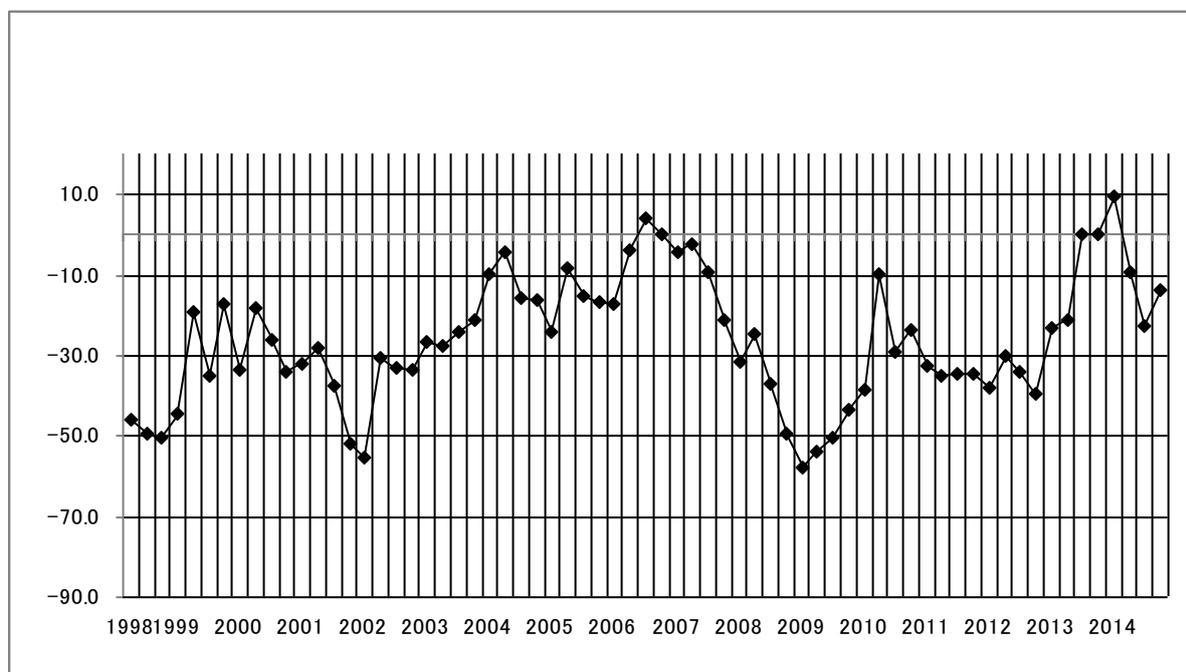
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	▲13.6	▲16.0	▲9.9	▲18.5	▲22.2	▲30.9
建 設 業	0.0	6.7	26.7	6.7	▲6.7	▲26.7
製 造 業	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	▲14.3
卸 売 業	0.0	▲11.1	0.0	▲11.1	▲22.2	▲22.2
小 売 業	▲45.8	▲37.5	▲45.8	▲37.5	▲41.7	▲41.7
サービス業	0.0	▲15.4	7.7	▲23.1	▲19.2	▲30.8
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	8.6	▲7.4	▲17.3	▲24.7	18.5	13.6
建 設 業	46.7	26.7	13.3	13.3	40.0	40.0
製 造 業	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
卸 売 業	22.2	▲33.3	0.0	▲22.2	11.1	▲11.1
小 売 業	▲25.0	▲16.7	▲29.2	▲29.2	8.3	4.2
サービス業	11.5	▲15.4	▲38.5	▲50.0	23.1	19.2
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲6.2	▲11.1	▲2.5	▲2.5	0.0	1.2
建設業	0.0	6.7	▲6.7	▲6.7	6.7	6.7
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	▲11.1	▲11.1	▲11.1	0.0	0.0
小売業	▲20.8	▲25.0	4.2	4.2	0.0	4.2
サービス業	0.0	▲11.5	▲3.8	▲3.8	▲3.8	▲3.8
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>